

月例経済報告（2024年6月）

● 月例経済報告（6/27）

基調判断	(6月) 景気は、このところ足踏みもみられるが、緩やかに回復している。 雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、欧米における高い金利水準の継続に伴う影響や中国経済の先行き懸念など、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。さらに、令和6年能登半島地震の経済に与える影響に十分留意する必要がある。 (5月) 景気は、このところ足踏みもみられるが、緩やかに回復している。 雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、世界的な金融引締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念など、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。さらに、令和6年能登半島地震の経済に与える影響に十分留意する必要がある。																				
個人消費	(6月) 持ち直しに足踏みがみられる。 (5月) 持ち直しに足踏みがみられる。 総消費動向指数（CTIマクロ）と総雇用者所得 (2015年=100) <table><tr><td>総消費動向指数 (CTIマクロ)</td><td>4月</td><td>名目</td><td>+0.1%</td><td>(3MA +0.1%)</td></tr><tr><td></td><td></td><td>実質</td><td>+0.1%</td><td>(3MA ▲0.0%)</td></tr><tr><td>総雇用者所得</td><td>4月</td><td>名目</td><td>+0.3%</td><td>(3MA +0.2%)</td></tr><tr><td></td><td></td><td>実質</td><td>▲0.1%</td><td>(3MA +0.1%)</td></tr></table>	総消費動向指数 (CTIマクロ)	4月	名目	+0.1%	(3MA +0.1%)			実質	+0.1%	(3MA ▲0.0%)	総雇用者所得	4月	名目	+0.3%	(3MA +0.2%)			実質	▲0.1%	(3MA +0.1%)
総消費動向指数 (CTIマクロ)	4月	名目	+0.1%	(3MA +0.1%)																	
		実質	+0.1%	(3MA ▲0.0%)																	
総雇用者所得	4月	名目	+0.3%	(3MA +0.2%)																	
		実質	▲0.1%	(3MA +0.1%)																	
設備投資	(6月) 持ち直しの動きがみられる。 (5月) 持ち直しの動きがみられる。 製造業・非製造業の設備投資(名目額) (兆円)																				
住宅建設	(6月) 弱含んでいる。 (5月) 弱含んでいる。 住宅着工戸数(季節調整値) (年率、万戸) <table><tr><td>4月</td><td>88.0 万戸</td></tr><tr><td>3MA</td><td>81.2 万戸</td></tr></table>	4月	88.0 万戸	3MA	81.2 万戸																
4月	88.0 万戸																				
3MA	81.2 万戸																				
雇用情勢	(6月) 改善の動きがみられる。 (5月) 改善の動きがみられる。 雇用者数、就業者数、就業率の推移 (万人) <table><tr><td>就業者数</td><td>4月：6,751万人</td></tr><tr><td>雇用者数</td><td>4月：6,096万人</td></tr></table>	就業者数	4月：6,751万人	雇用者数	4月：6,096万人																
就業者数	4月：6,751万人																				
雇用者数	4月：6,096万人																				

生産	(6月) <u>このところ持ち直しの動きがみられる。</u>	鉱工業生産・出荷・在庫・在庫率の推移 (2020年=100) 出荷、生産、在庫、在庫率の推移を示す折線グラフ。2009年7月から2024年7月までのデータが示されている。在庫率は右側の縦軸で表示されている。
	(5月) 一部自動車メーカーの生産・出荷停止の影響により、生産活動が低下していたが、このところ持ち直しの動きがみられる。	
輸出	(6月) 持ち直しの動きに足踏みがみられる。	地域別輸出入数量指数 (2020年=100) ①輸出 全体、アジア、アメリカ、EUの輸出数量指数の推移。2008年7月から2024年7月までのデータが示されている。2020年5月の3ヶ月平均（3MA）の増減率も示されている。
	(5月) 持ち直しの動きに足踏みがみられる。	
国内企業物価	(6月) <u>このところ緩やかに上昇している。</u>	企業物価の推移 (2020年=100) 国内企業物価、輸入物価（目盛右）、輸出物価（目盛右）の推移を示す折線グラフ。2008年7月から2024年7月までのデータが示されている。
	(5月) このところ緩やかに上昇している。	
消費者物価	(6月) 緩やかに上昇している。	消費者物価の推移（連鎖基準、指数） (2020年=100) 生鮮食品を除く総合、生鮮食品及びエネルギーを除く総合、総合の推移を示す折線グラフ。2010年7月から2024年7月までのデータが示されている。
	(5月) 緩やかに上昇している。	
海外経済	(6月) <u>世界の景気は、持ち直している。</u> 先行きについては、持ち直しが続くことが期待される。ただし、欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞に伴う影響による下振れリスクに留意する必要がある。また、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動の影響を注視する必要がある。	
	(5月) 世界の景気は、一部の地域において弱さがみられるものの、持ち直している。 先行きについては、持ち直しが続くことが期待される。ただし、世界的な金融引締めや中国における不動産市場の停滞に伴う影響による下振れリスクに留意する必要がある。また、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動の影響を注視する必要がある。	

月例経済報告：内閣府